

こてんらくごたいけい だい2かん おおやままいり

#45 古典落語大系 第2巻 [大山詣り]

作者：江國滋（えくに・しげる 1934-1997） 他

刊行：昭和44年（1969）



📖 解題

■ 内容

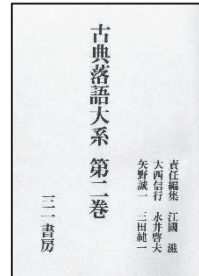
『古典落語大系』は特定の芸風や演出に拘泥せず、伝統落語のすべての面を網羅し、今一度落語を読み直そうと再編集したものである。

本大系の第2巻には、「大山詣り」が収録されている。文字通り大山詣りがテーマで、その風俗がよくわかる江戸落語である。似たような構成のものに、お伊勢詣りをテーマとする上方落語の「百人坊主」あるいは「百人坊主勝負の魁」と題するものがある。「大山詣り」は、「百人坊主」が江戸に渡ったものという説とそれぞれが別個に発生したという説がある。また、『大道中膝栗毛』（滝亭鯉丈）に同様の筋がある。いずれにしろさかのぼると狂言の「六人僧」が原話とされている。さらにさかのぼると中国・明の『雅譚』に「朱搭戸」という話がある。

この落語の成立時期は不明である。文化年間（1804-17）のネタ帳に「大山詣り」という記述があるが、内容が伝わっていないので同じものかは不明である。一方で江戸落語でも明治大正期までは「大山詣り」の内容を「百人坊主」と題して上演しており、「大山詣り」という題での上演は古いものではないようである。このあたりが「百人坊主」が元になっているという説の論拠にもなっている。

■ 作者

「大山詣り」の作者は不明だが、滝亭鯉丈の『大道中膝栗毛』に同様の筋があることから鯉丈が自作自演したのではないかという説がある。



[913.7/15/2]

なお、この巻の編集は江国滋等が行っている。



参考文献

渡邊均「童戯人瀧亭鯉丈の研究」(『落語の研究』渡邊均著 駸々堂書店 1943)
[779.1/4]

「輪講 大山詣り」「大山詣り」(『圓生全集 4』三遊亭円生(六代目)著 青蛙房 1961) [913.7/4/4]

「大山詣り」(『志ん生長屋ばなし』古今亭志ん生(五代目)著 立風書房 1971) [913.7/105/2]

「解説 百人坊主」(『米朝落語全集 第2巻』桂米朝著 創元社 1981)
[913.7/31/2]

山本進「演目解題」(『名人名演落語全集 第5巻』立風書房 1982)
[913.7/33/5]

鈴木圭一「瀧亭鯉丈」(『研究資料日本古典文学 第4巻』大曾根章介ほか編 明治書院 1983) [910.2/112/4]

『狂言ハンドブック 改訂版』油谷光雄編 三省堂 2000 [773.9/106]

岡田充博「落語『大山詣り』の原話」(『横浜国大言語研究』第27号 横浜国立大学国語・日本語教育学会 2009) [Z810.5/3]

『膝栗毛文芸集成 第19巻』中村正明編集・解題 ゆまに書房 2014
[K97/168/19]